

単元名

「立ち上がれ 災害から」

1. 単元目標

- ・避難所生活を疑似体験する中で、避難所で生活するために必要なものや互いに配慮し協力することの大切さに気づくとともに、防災意識を高めることができる。
- ・避難所での人々の思いをもとに、人々にとって大切なものは何かという課題を、自分なりの考えをもとに、課題解決にあたることができる。
- ・課題に対して、自分なりの考えのもとになるものを探し、まとめたものを相手に分かるように伝えることができる。
- ・自分の考えを膨らませるために、他の人々から学ぶことを大切にする。

【市民性の目標】

- ・今やるべきことを一生懸命取り組むことができる。(自立)
- ・目標に向かって、自分をよりよく高めることができる。(自立)
- ・自他を大切にし、お互いの考えを尊重し合う。(共生)
- ・協力して、学習や活動に取り組むことができる。(共生)
- ・集団の規律を守り、地域の活動に積極的に参加する。(社会参加)
- ・学校や地域のために役に立とうと行動する。(社会参加)

2. 単元構想 (全70時間)

評価の観点・・・●かかわる力 ★問題解決力 ◆表現力
 評価方法・・・【 】

段階	子どもの意識の流れ	教科・道徳・特活	評価	
課題把握	<p>家や道路が流され、町がなくなる。津波がこんなに恐ろしいとは、知らなかった。身を守る。家具の固定をする。津波が来るかもしれないので逃げなければならない。</p> <p>日曜日に家族みんなで話し合った。八幡神社に逃げることになった。</p> <p>聞きたいことを考えよう。</p> <p>避難所生活は大変だ。電気はつかないし、水もない。食べるものは十分なかな。</p> <p>テレビだけでは分か</p>	<p>①総合的な学習の時間 防災(24時間)</p> <p>1. 東日本大震災について話し合う。</p> <p>2. 災害から命を守るためには、どうしたらよいかを考える。</p> <p>3. 家族会議を開く。</p> <p>4. 家族会議で話し合ったことを発表する。</p> <p>5. 広川町の防災対策について話を聞く。</p> <p>6. 避難所について考える。</p> <p>7. 自然教室で学びたい</p>	<p>堤防掃除</p> <p>避難訓練</p> <p>堤防掃除</p>	<p>●災害の怖さを知り、命の大切さに気づき、実感できる。【ノート】</p> <p>★災害後に困ることを調べることができたか。【ノート】</p> <p>●ボランティアの人の話を聞いて、防災意識を高めることができたか。【ノート】</p> <p>★避難所について考えることができたか。</p>

らないことがいっぱいあるんだ。

広川町も避難所を考えている。避難所はどんな対策をしているのか。

避難所生活は大変そう。私たちも実際に体験してみよう。

テント作りや朝食作りを頑張りたい。

みんなと力を合わせて頑張りたい。

乾パンとスープだけでは辛い。

やっぱり温かいみそ汁はおいしい。元気が出てくる。

多くのことを学んだ。避難所生活は大変だということが分かった。

水、食べ物、家、お金、仕事、強い意志。でも、なんといても助け合い、支え合いたい。

追求

図書室で資料を集めよう。

パソコンでも調べてみよう。

みんなに分かりやすく伝えるためのまとめ方を工夫してみよう。

自信を持って発表しよう。

みんなの発表を聞いて、自分の意見をまとめよう。

ことを考える。

8. 自然教室の計画を知る。

百年後のふるさとを守る

特別活動（2日間）
1. 非常時にどのように身を守るか。（講義、実習）
2. 避難所での生活（講義、実習）
3. ボランティアの基礎（講義、実技）

②総合的な学習の時間
防災（30時間）

避難訓練

1. 自然教室を振り返る。
2. 災害から立ち上がるためには何が大切なのかを考える。（ウェビング図）
3. 個人の課題を決める。

稲むらの火祭りに参加

4. 課題について、調べ追求する。
5. 調べたことをまとめる。

堤防掃除

「もったいない」（道徳1時間）

6. 発表をし合う。

避難訓練に向けて

7. 「自助、共助、公助」について考える。

避難訓練

命の時間
道徳1時間

★自然教室で学びたいことを考える。【ノート】

◆災害から立ち上がるために何が大切かを意識しながら、振り返ることができたか。【ノート】

★災害から立ち上がるために何が大切かについての課題を考えることができたか。【ノート】

★自分の課題を解決するための方法を考えることができたか。【ノート】

★学んだことを分かりやすく伝える方法を選んでまとめることができたか。【発表物】

◆友だちに伝えるように話すことができたか。【発表】

<p>発信</p> <p>広川町の防災対策についてもっと詳しく知りたいな。</p> <p>地域に自主防災組織があるのかな。どんな活動をしているのだろう。</p> <p>防災対策について学んだことをまとめた。</p> <p>稲むらの火の館にはたくさんの人が訪れるので、私たちの冊子を展示してもらいたいな。</p>	<p>③総合的な学習の時間 防災（16時間）</p> <p>1. 広川町では災害から身を守り、立ち上がるためにはどんなことをしているのか。 ・自主防災組織について ・社会の仕組みについて ・避難所について</p> <p>2. 意見文を書く。</p> <p>3. 冊子にする。</p> <p>4. 地域に発信することについて考える。</p>	<p>避難訓練</p> <p>社会（7時間） マスコミ</p> <p>避難訓練</p>	<p>◆社会の仕組みについて理解することができたか。 【ノート】</p> <p>★一年間を振り返って、学んだことを論文に書くことができたか。 【書いた物】</p>
---	---	---	---

3. 実践記録

① 「東日本巨大地震について、思ったことや考えたことを話し合う。」

2011年3月11日に東日本に巨大地震が起こった。和歌山県にも津波警報が発表された。その様子を子ども達も映像や新聞を通して見ている。まず、一人一人が地震や津波について感じたことを書き留め、意見交換した。子どもたちは、「地震や津波がこわい。町がめっちゃめやになり、家族をなくし、命を奪う。他人事ではない。家族と離ればなれになったらいやだ、など自分の思いを書き留めていた。

近い将来起こるといわれている南海トラフ地震、災害から身を守るためには日頃どのような備えが大切なのかを、みんなで考えていくことになった。

② 「命を守るために災害前にどのような備えをしておかなければならないのか」

まず、一人一人がノートにどのような備えが大切なのかを書き、グループで意見交換した。非常持ち出し袋の用意、安全な避難経路、タンスの固定、避難所の確認、避難訓練に参加など、たくさんの意見が出された。

③ 「家族会議を開こう」

前時の意見を基に家族会議で話し合っておきたいことをグループで出し合った。その結果、*避難場所を確認する。*避難経路を決めておく。*待ち合わせ場所の3つに決まった。一人一人が家族会議を開いて、話し合い、確認した。

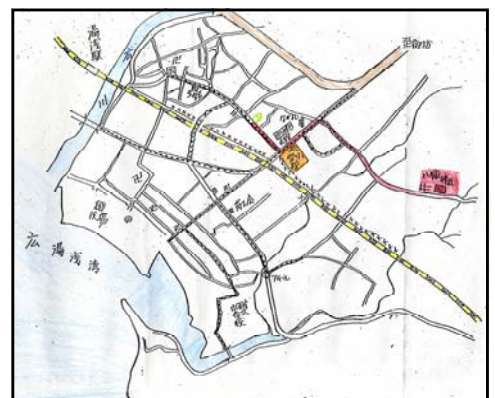
④ 「広の地図に、自宅から八幡神社までの道に色を塗り、避難経路を確かめよう」

避難経路を地図に表すことで、逃げる道を再確認できたようである。「真っ先に八幡神社へ、家に引き返さない、」など、家族でいい話ができよう。津波がくるときは、より早く、より高いところに逃げ、命を守るということを確認し合った。

⑤ 「広川町の防災対策はどうなっているのだろう」

各家庭では、非常持ち出し袋の準備、タンスの固定、家族会議等、災害への備えをしている。では、広川町ではどんな防災対策をしているのだろうかということで、町の防災対策について調べる事になった。

まず、グループになって、防災対策を出し合い、その後、全体で確認し合った。災害前、災害時、災害後の対策に分けた。避難所が多いということ、役場が避難所になっているけど、海



の近くなので大丈夫なのかなという意見が出された。そこで、広川町の防災対策について、今どんな対策をしているのか、尋ねてみることになった。

広川町の防災についての質問内容

1. 広川町には、4つの堤防がありますが、今の堤防で津波は防げるのですか。また、何メートルまで防げるのですか。
2. 赤門、銀門が閉じたら、みどり区の人たちはどうなるのでしょうか。 等々

⑥ 「広川町防災対策担当者の話を聞こう」

広川町の防災対策を聞いて、町民の命を守るために、上記の質問内容以外に訓練の大切さや日頃から人と人とのつながりを大切に、高齢者や体の不自由な人、困っている人には声をかけ合い、近所や地域で支え合うということを知ることができた。また、地震時には「自分は大丈夫」ではなく、とにかく高台に逃げる事が大事であることも学び、防災意識を高めることができた。



⑦ 「避難所生活の写真を見て気がついたことを話し合おう」

広川町には避難所が56カ所用意されている。災害後に家を失うと避難所生活を余儀なく強いられる。避難所生活の写真を見て、避難所生活とはどういうものなのか話し合うことにした。

- ・体育館は広いが、人がいっぱい狭い。自由に動けないようだ。
- ・食料がなくなったら、どうするのだろう。
- ・シートの上に座っている。落ち込んでいる。

避難所生活の一枚の写真から、避難所生活の大変さに気づくことができた。そんな避難生活の一部を自然教室で疑似体験することを伝えた。



⑧ 「自然教室で避難所生活をして学びたいことを書き留める」

- ・自然教室で避難所生活を疑似体験をするに当たって、何を学びたいのかを一人一人めあてをもって参加できるように考えた。
- ・いつもの普通の暮らしと何が違うのか、汗だくだくなのにシャワーがないのはどんなにつらいのかを学びたい。

⑨ 「自然教室で避難所生活を体験しよう」

目的・・・災害が起きた際の生活について体験する。

1 自然教室シナリオ

20XX年8月30日未明、太平洋沖で巨大な地震があった。東海、東南海、南海が同時に起き、三連動といわれる巨大地震だ。広の町にも11mを超える津波が襲い、町を呑みこんだ。

町の人たちは、浜口梧陵翁の知恵で高台に逃げ命は助かった。しかし、ライフラインは寸断され、町は壊滅状態になった。太平洋岸各地に被害は及び、東京、名古屋、大阪も大きな被害を受けた。特に和歌山県沿岸の被害は甚大で国道、JRも寸断され物資の移動も人の移動もままならないような状態である。

今回の自然教室はこの状態で子どもたちがどのように避難所で対応するのかを学ぶ場にしたい。

2 設定

- (1) 津波の後の避難所である。
- (2) ライフラインは寸断されている。(基本的に電気、水道がない)
- (3) 被災日(1日)は簡単な非常食しかない。
- (4) 翌日、救援物資が届く。

3 強調点

- (1) 衣・食・住が確保される。
- (2) 衣食足りたあとで、かかわることができる。

〈自然教室で学んだこと〉

衣食住があれば、人間は生きていける。

【テントの張り方、たたみ方】【寝袋の使い方】

- ・協力することの大切さが分かった。協力があればできる。
- ・すごく力があるが、みんなと支え合った。
- ・短時間でできるので、災害の時でも便利だった。

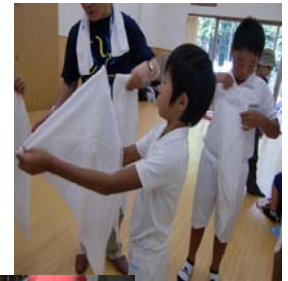


【ロープの結び方】

- ・ロープは災害時いろいろなところで役立ち、結び方を覚えておいたら、たくさんの人を助けることができると思った。
- ・ロープで棒と棒を結ぶことで家具（3本の木が椅子に）を作ることでもできる。

【担架とけがをしたときの応急処置】

- ・手当の仕方を身につけると人を救うことができる。
- ・たくさんの人を助けたい。
- ・身近なものでできるので、もしも何もなかったとしても人を救えるので便利だと思った。
- ・やり方も簡単だったので絶対活用したい。



【火おこし】

- ・細かい木ほど火がつきやすい事が分かった。
- ・紙のように薄く切る。
- ・利き手には軍手をささず利き手でない方に2枚重ねてさすことで、万一の事を考えて二重にしておく。
- ・マッチのつけ方で、向きを変えるとつけやすい。
- ・体と手で風を防ぐことが分かった。
- ・少しの工夫で大きな炎を出すことができた。



【旗のあげ方 降ろし方】

- ・旗を大切にすることを学んだ。



自然教室で擬似避難所体験をして、避難所生活は不自由で大変だったこと、いかに家があり、着る物があり、食べる物がある当たり前の生活が幸せかを感じることができたようだ。テントを立てる、寝袋をたたむ、炊き出し等を通して、協力することの大切さを、4つの実習、ロープ、国旗、担架・三角巾、火おこしを体験する事で、技術を身につけておけば、いざというときに命を守ることにつながるし、同時に、人を助け、支え合うことにもつながっていくことを学ぶことができた。

⑩ 「避難所生活をして大変だなと思ったことは何だろう。」

自然教室をして、避難所生活の大変さを考え、発表し合った。

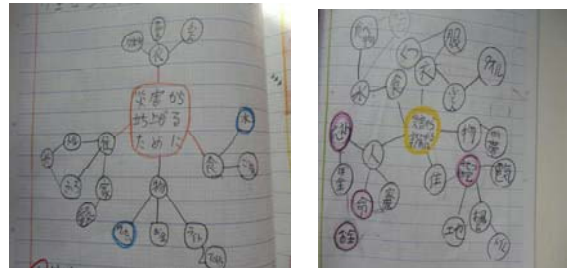
衣	食	住	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・着替えるときが、1回しかなかった。 ・シーツや寝袋の片付けが大変 ・服が汗くさくて気持ちが 	<ul style="list-style-type: none"> ・ちゃんとした食べ物がそろっていない。 ・乾パンがおいしくなかった。 ・救援物資が届いていな 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほんの少しの場所で、ご飯を食べたり、服を着たり、寝たりと、少ないスペースで何もかもしなければならぬので、とて 	<ul style="list-style-type: none"> ・当たり前のことができなくなる。 ・避難所生活全て

悪い。 ・寝袋がかたくてうすい。	かったら、何も食べる ものがないので、本当 に大変だと思った。 ・乾パンとスープだけで はお腹がすく。	も大変だ。 ・お風呂がないので大変 ・ライフラインが止まって いる所 ・テントの中は狭い。
---------------------	---	---

「衣」では、昼間汗をかいたのに、お風呂に入れず、気持ち悪かったということである。
「食」では、やはりお腹がとってもすいたようである。乾パンは飽きてくるし、のどが渇くし、ちゃんとした食事がとれないのはとてもつらかったようである。朝ご飯のありがたさを痛感したようだ。
「住」が一番多かった。テントの中は狭く、身動きがとれなかったようだ。避難所体験は大変で、特に東日本大震災に遭われた人々の気持ちがよく分かったと、感想を述べた子もいる。

⑪ 「災害から立ち上がるために、一番必要なこと、大切なことはなんだろうか」

自然教室で避難所体験をして、困ることがたくさんあった。災害から立ち上がるためには一番必要なことは何かをウエビング図を使って一人一人書き留めた。主に衣、食、住の3つをポイントにして考えた。



⑫ 「課題を決めて、調べる方法を考えよう」

課題	人数	調べる方法
・食料について	4人	インターネット
・食料と衣服について	3人	本や資料
・住まいについて	2人	テレビの防災番組
・ボランティアについて	3人	新聞
・家族について	11人	人に聞く
・支援物資について	3人	自分で考える
・お金について	2人	家族に聞く

災害から立ち上がるために、一番必要なことは何かを、一人一人よく考えて決めることができるよう、時間を確保した。理由も書かせた。同じ課題の人も多いが、まず一人で調べた。調べる方法は、主にインターネットと自分なりに考えるである。

⑬ 「課題について、調べよう」

東日本大震災の記事や復興についての内容が多かったので、そこからヒントを得るようにした。

インターネットで検索しても自分が調べたい内容がなかなか見つからず、苦労したところもあった。災害から立ち上がるために自分なりに自分の課題についてどう思うかを考え、文や図に書き表した。



⑭ 「調べたことを、まとめよう」

課題ごとにグループとなり、一人一人が調べたことを出し合い、そこからテーマに沿ってまとめることにした。まとめ方は、1. テーマの理由、2. 調べた内容、3. 調べて分かったこと・感想の三つの流れを確認した。発表し合うことを前提に、聞き手に分かりやすいようにまとめること、そのために、見出しを考える、要点をまとめ内容が重複しないよう整理する、図や絵を用いて、グラフを使用する、番号をそろえる、ポイントに色を使うなど、指導した。

テーマ 災害から立ち上がるためには、「家族」が大切

1. 理由

災害から復興するときに、家族がいなければ不安からパニックを起こしてしまい、ス

トレスもたまってしまう。家族がいると安心だし、協力し合えるから必要である。立ち上がる勇気もてる。家族が一番大切だ。

2. 調べたこと

家族がいると

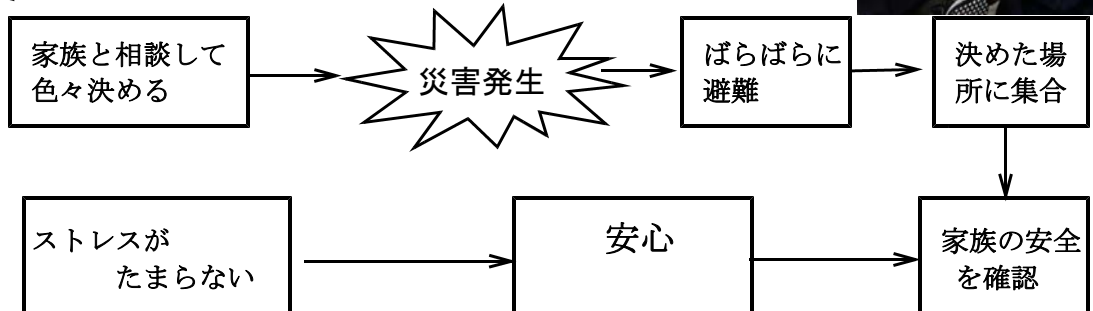
- ・協力し合える。
- ・気軽に話すことができる。
- ・安心できる。笑顔をくれる。
- ・支えてくれる。
- ・一緒に悩みを解決してくれる。

家族がいなかったら

- ・家族がいないと、食事や洗濯に困る。
- ・相談してくれる相手がいなくなる。
- ・家族がいないと独りぼっちになり、不安になる。
- ・悲しくなって、どうやって生きていけばいいかわからなくなる。

災害後に家族と再会できるためには、

- ・家族と持ち出し品を準備しておく。
- ・普段から地域とのつながり、家族とのつながりを深めておく。
- ・連絡方法や避難所、避難経路など、家族で決めておく。



3. 分かったこと 感想

- ・家族について、話し合い思ったことは、家族がいないと、不安が増えることだ。例えば、気軽に話せる人がいなくなったり、一緒に生活をしていけなくなる。だから、身近にいる家族は、とても大切だと思う。
- ・私にとっては、家族が一番大切で、もし家族がいなくなったら、何もできなくなってしまう。家族で避難場所を決めたり無事を知人や家族に伝えておくことは、家族と会うためには一番大切なので、家族はとても大事だと言うことが分かる。
- ・家族は私たちにとっては大切な存在だ。家族や知人友人が見つかったら、とても嬉しい。

⑮ 「発表会をしよう」



支援物資



家族



ボランティア

発表会前には、グループで分担して、発表練習をした。発表会では、聞き手を意識して、声の大きさを大切にされた。発表後に質問を聞いた。聞き手は、発表内容の感想、学んだことを書きとめた。発表会では質問はあまりなく聞くことが中心であったが、一人一人感想や学びを短時間にしっかり書くことができていた。

「家族が大切」では、心の支え、心のよりどころとなり、いるのといないのとでは生きる力が違ってくる。困ることがあれば、いつでも相談でき、心を元気にしてくれる。災害後に家族と自分の命を守り、災害から立ち上がるためには、災害前の備えが大切で、話し合いが命を守るということになるということを学ぶことができた。

「食料と衣類が大切」では、生きるために一番食料が必要で、衣類も寒さなどで、身を守るためになくてはならないことを学んだ。ライフラインがストップした時、非常持ち出し袋の大切さも学んだ。

「支援物資の大切さ」では、たくさんの物に人々のやさしさがつまっていることを学んだ。

「住まいの大切さ」では、息が詰まる避難所のつらさに比べ、プライバシーを守れる自由になる所がほしくなり、まず仮設住宅で、最後に個人の家が必要になることを学んだ。

「お金」が大切では、最初は、支援物資をもらえるが、日が経つにつれお金が必要になる。お金があれば、何でも買うことができ、自分の家を建てる時にも、お金が必要であることを学ぶことができた。

「ボランティアが大切」では、一人だと瓦礫の処理など大変で、絶対人の力がないと復興はありえないこと、また、片付けなどの仕事だけでなく、お年寄りや子どもたちの励ましとなり、悲しい人々の心の支えや励ましになることも学ぶことができたようだ。

⑩ 「みんなの発表をきいて、災害から立ち上がるためには何が大切なのだろうか」

発表が終わって、今一度災害から立ち上がるためには何が大切なのかを考え、話し合った。

自分の調べた課題が大切だと思う人、「家族」から「支援物資」に変わった人、等、様々であった。特に、心の支えになる家族と一緒にいれば、お金や物がなくても困難を乗り越えることができるという意見が多かった。発表後に増えたのが、「ボランティア」である。災害から立ち上がるのには、人の助けなしに復興はできないし、人は生きる希望を与えてくれるということだ。生きるための食料や衣服、支援物資等の物と不安な心を満たしてくれる両面が立ち上がるためには大切だということに気がついた。そして、話し合いからみんなが調べた事がどれも必要であるという、結論に至った。そこで、災害直後からどれが一番大切なのかを時系列にして考えることにした。

⑪ 「時系列で、災害から立ち上がるために大切なことを考えよう」

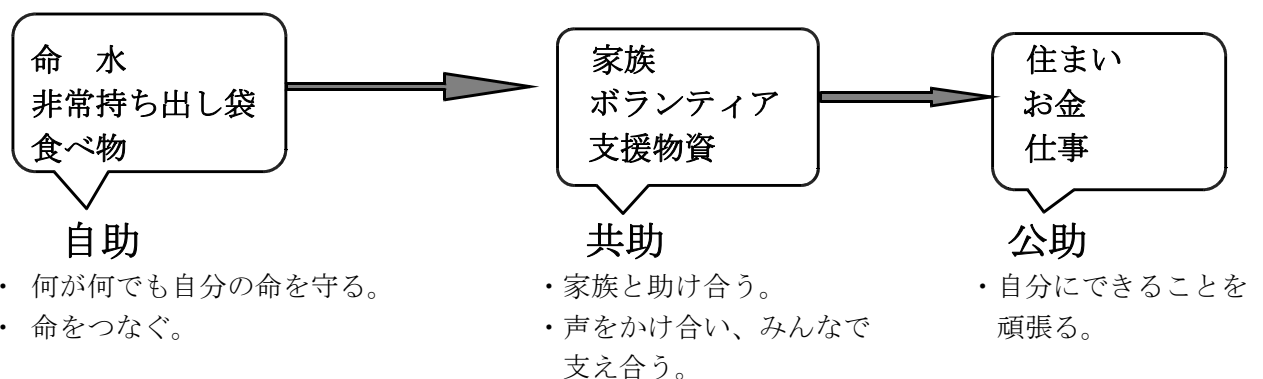
地震直後に必要な物は、非常持ち出し袋が大切だと思います。次に必要なのは、家族です。家族がいると安心できます。協力、支え合い、助け合いもできます。次に必要なのは、ボランティアです。自分たちだけで出来ないことが、ボランティアがいると、できるようになります。そして、復興するときに必要なのは、住まいだと思います。やっぱり、自分達の住む場所が必要だと思います。

時系列に並べることで、災害から立ち上がるために何が大事なのか、何が必要なのかを、想像しながら、書きとめることができた。自己の課題を「家族が大切」と言った人の中には、真っ先に家族を探す、家族の安否を確認しないと何もできないと言う人がいた。

⑫ 「災害から立ち上がるために大切なことを図に表そう」

国語の「百年後のふるさとを守る」で学習した自助、共助、公助の順に、みんなで話し合いながらまとめた。「仕事」について出てこなかったが、お金を得るためには、仕事がほしい、働かなければ生きていけないし、普通の生活ができないということになった。

【命を守る】 → 【人と助け合う】 → 【国、県、町が助ける】



⑱ 「上の図を見て、災害から立ち上がるとは、どういうことだろうか」

- ・災害から立ち上がるということは、災害が起きてから、みんなで命がけで協力し合って、本当の暮らしにもどるとのことだと思います。
- ・災害から立ち上がるということは、町の人や家族と助け合うということだと思います。なぜかという助け合うことが一番大切だと思うからです。
- ・災害から立ち上がるとは、自助、共助を大切にすることだと思う。

⑳ 「広村復興のために力を尽くした浜口梧陵から学ぼう」

1854年の安政の大地震で、大きな被害を受けた広村を復興させた梧陵の考え方や生き方をビデオを通して再確認し、学んだ。9年前に放映された「その時、歴史は動いた」の番組である。解説者として国語の本ののっている「百年後のふるさとを守る」の作者である河田恵昭氏が出ている。

東日本大震災後の復興中の今、160年前の梧陵さんの偉大さを改めて感じたようである。

「百世の安堵をはかれ」を見て、ぼくはもっと命を大切にしようと思いました。梧陵さんは冷静で良かったと思います。安政南海地震から160年経った今、次に南海トラフがこわいから、非常持ち出し袋とかいろいろ備えようと思いました。もし今来たら、早く「率先避難者たれ」になって、八幡神社へ行こうと思いました。これからは備えておきたいと思いました。

㉑ 「“立ち上がれ災害から”の学習を通して学んだことを冊子にして、地域に発信しよう」

この一年間、「立ち上がれ 災害から」をテーマにして学んできたことをどのようにしてまとめて地域に発信していきたいかを話し合った。広小のホームページにのせる等の意見もあったが、冊子を作って、「稲むらの火の館」に展示し、地域の人は勿論、日本各地から見学に来られた人に見てもらおうということになった。

4. 成果と課題

【市民性の目標】

自立

授業の初めに一時間一時間のめあてを知らせ、書きとめ、学習してきた。だから何を勉強するのがはっきりしたので、どの子も一生懸命前向きに取り組むことができた。しかし、「自分をよりよく高める」という点においては、個人差があり、受け身的な態度が目立った。

共生

ほぼ誰とグループになっても協力して話し合いや、作業をすることができる。同じ課題どうしがグループを組み、調べたことをまとめる時も、男女仲良く取り組めた。

社会参加

この一年様々な地域の行事に参加し、地域と深く関わる事ができた。しかし、集団の規律を守り、挨拶などできるかという点、そうではない。全体で挨拶ができて、個人ではできないのが現状である。「稲むらの火祭り」においては、「自他を大切に、人の話を聞く」を意識して、参加させたい。

【かかわる力】

自分の考えを膨らませるために、他の人々から学ぶことを大切にする。

- ・グループ活動を通して、友達とかかわることができ、話し合いも道筋からそれることなく取り組むことができる。
- ・「家族会議をする」課題があり、ほとんどの子が休日などに家族と話し合いを持つことができ、避難経路、避難場所を確認、決定することができた。

【問題解決力】

避難所での人々の思いをもとに、人々にとって大切なものは何かという課題を、自分なりの考えをもとに、課題解決にあたる事ができる。

課題設定

「災害から立ち上がるためには、一番何が必要か、大切か」の課題設定は自然教室の体験をもとにして、考えることができた。まず、避難所生活で実際に困ったことを出し合った。その後、「復興するために一番大切なことは何か」をウエビング図に書き表し、イメージを膨らませ理由も示し、一人一人課題を見つけることができた。しかし、中には友達の発言に影響されたり、思いつきのまま決めたりしたため、理由づけが浅くなってしまった子もいた。

課題解決方法・課題追求

問題の解決手段としては、インターネット、本、資料、テレビ、体験者に聞く等を挙げた。昨年度の反省を踏まえ、「体験者に聞く」を一番にして調べたいと思い、岩手県の小学校に交流依頼をしたが叶わず、結局インターネットに頼るしかなかった。しかし、検索しても即自分の課題に結びつく資料はなく、内容も浅くなってしまい問題解決には限度があった。課題追求を充実させるためには、単元構想の見直しや単元計画を早めに綿密に立てておく必要がある。

表現力

課題に対して、自分なりの考えのもとになるものを探し、まとめたものを相手に分かるように伝えることができる。

書くことを重視してきたので、一時間一時間の授業の中で、課題に対して自分の考えや思いを書くことができた。それをもとに発表し、学び合いを深めることができた。ノートを見ると一年間の取り組みが分かり、学習した内容、思考の流れを思い出すことができ、比較することができた。

避難所生活を疑似体験する中で、避難所で生活するために必要なものや互いに配慮し協力することの大切さに気づくとともに、防災意識を高めることができる。

広川町の防災対策について防災担当者の方に近い将来起こると言われている南海トラフの大地震や津波の大きさ等、具体的な話を聞くことで、どの子も危機感を持ち、非常持ち出し袋の用意、家族会議の必要性、八幡神社に避難すること、避難訓練の大切さなど、防災意識を高めることができた。

また、自然教室では、今復興中の東北の人たちの大変さを少しでも感じることもできたようだ。また、講義から、地震や津波がどうやって発生するのか、地震が起きて何分後に地震が来るのか弱い地震でも津波が来ることを知り、いつ来てもいいように備えの大切さを学んだ。